

南湖におけるホンモロコの再生産状況調査

米田一紀・磯田能年・大植伸之

1. 目的

南湖はかつてホンモロコの主要な産卵場であったが、近年、産卵がほとんど確認されない状況が続いていた。このため、滋賀県では種苗放流、水草刈り取りおよび外来魚駆除を行い、南湖での再生産を回復させる取り組みを行っている。本項では親魚の南湖への回帰状況調査および南湖での産卵状況調査の結果を報告する。

2. 方法

① 親魚来遊状況調査：4～7月に、南湖の東岸3地点（草津市下物町地先、下寺町地先、志那町地先）に設置されたエリにおいて、ホンモロコ親魚の採捕状況調査（以下、「エリ調査」という）を行った。採捕されたホンモロコ親魚はALC耳石標識を確認した。

② 産卵状況確認調査：全長20mm種苗の放流地点に隣接する、旧草津川河口から下笠造成ヨシ帯間のヤナギ林（以下、下笠調査地点）および赤野井湾内のヤナギ林（以下、赤野井調査地点）において、3月15日～6月22日に計15回、週1回の頻度で産卵量を調査した。また、5月10日～6月14日の期間に計4回、かつて産卵が確認されていた南湖西岸の3地点（大津市堅田地先、大津市苗鹿地先、大津市比叡辻地先）において、産卵の有無を確認した。

3. 結果

① エリ調査では、ホンモロコ親魚457尾が採捕された。このうち91尾が放流魚であり、来遊親魚の多くが天然域で再生産された個体であると考えられた。また、エリ3統における4～7月の親魚採捕尾数の合計は、直近の3年間で最大となった（図1）。

② 下笠調査地点では4月5日～6月7日、赤野井調査地点では4月19日～5月31日の期間に産卵が確認された。昨年と比較して、調査期間中に確認された卵の総数は両地点とも増加したが、特に下笠調査地点では急激な増加を見せた（図2、図3）。また、南湖西岸における調査では、全ての地点で産卵が確認された。以上のとおり、約20年ぶりに南湖の複数地点でまとまった産卵が確認され、琵琶湖南湖におけるホンモロコの産卵の急速な回復が示唆された。

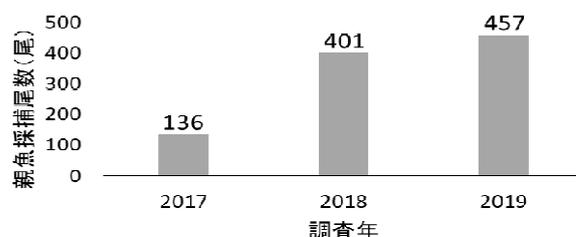


図1 南湖東岸のエリ3統における親魚採捕尾数の推移（4～7月）

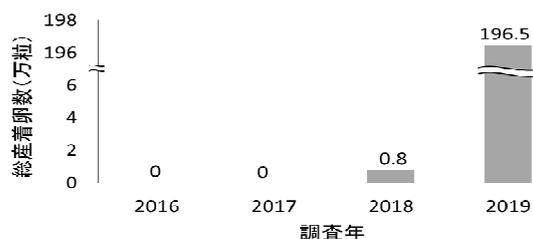


図2 下笠調査地点における産卵量の推移

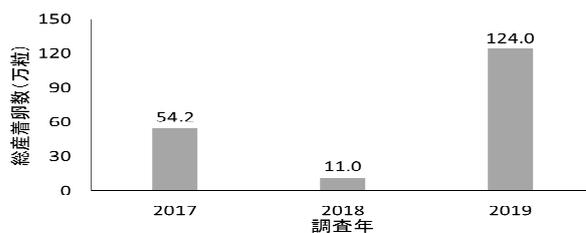


図3 赤野井調査地点における産卵量の推移